

7日 5月22日(水) 天気 晴れ

ボジバサのテント2日目

AM5:00 モーニングコール

AM6:00 マハラジの講和と瞑想

宏樹先生と合流。

これで安心、強い味方が来てくれました。

気温1度、湿度24%

朝は、とにかく寒い。風も強い、トイレには行きたいのを我慢。

こんな中でも、5時前には、お世話してくださる方々は、モーニングコールのお茶の準備、朝食の準備等をしてくださる。

AM8:00 朝日が射すと温度は20度に。湿度は同じ。

ここで行う、最後の瞑想とアーサナだ、何かこみあげてくるものがある。



AM9:30分 朝食

PM0:00 アグニホトラ

明日の皆さんの安全を願うのと同時に、ここでもヨーガの智慧を伝えてくださったマハラジに感謝。

日差しは強いが、風が強いので、お世話してくださる方々が終わるまで、ずっと、毛布をもって周りを囲ってくださっていた。

地元の新聞記事に掲載される。

大変な思いをして、ここまでやってきているため、皆、かなり、信仰心が高まっている。



औद्योगिक क्षेत्र में किसके लिए कितनी जमीन खोनी थी प्रोलेट

कानपुर प्रमुख पुराने क्षेत्र में 379 एकर से परत जमीन
 गुजरात में 134, 135 एकर से कम खेत
 गुजरात क्षेत्र में खेत 145 एकर से 7,596 एकर
 कर्नाटक क्षेत्र में खेत 145 एकर से 4,25 एकर

क्या है प्रोलेट

किसी क्षेत्र में प्रोलेट की संख्या बढ़ने से ही प्रोलेट कहते हैं। प्रोलेट का अर्थ है जो लोग जो भी काम करते हैं वे प्रोलेट हैं। प्रोलेट का अर्थ है जो लोग जो भी काम करते हैं वे प्रोलेट हैं। प्रोलेट का अर्थ है जो लोग जो भी काम करते हैं वे प्रोलेट हैं।

बधा यामसमा का 13 एकड़ जमीन

कानपुर में 13 एकड़ जमीन का आवंटन किया गया है। यह जमीन कानपुर में 13 एकड़ जमीन का आवंटन किया गया है। यह जमीन कानपुर में 13 एकड़ जमीन का आवंटन किया गया है।

उकटा (एकटा) का दल में विलय

उकटा (एकटा) का दल में विलय किया गया है। यह दल कानपुर में 13 एकड़ जमीन का आवंटन किया गया है। यह दल कानपुर में 13 एकड़ जमीन का आवंटन किया गया है।

देवभूमि की विपत्ति

देवभूमि की विपत्ति का कारण है। यह विपत्ति कानपुर में 13 एकड़ जमीन का आवंटन किया गया है। यह विपत्ति कानपुर में 13 एकड़ जमीन का आवंटन किया गया है।

環境は、結構、過酷だが、皆さんが力を合わせて、ひとつの目的に向けて、一緒に進んでいる感じがする、誰ひとり、愚痴もいわないし、体調も皆、それなりによい。

アグニホトラでも、一所懸命で、皆がひとつにまとまっている感じがするのは私だけではないと思う。

PM6:00 夕食



PM8:00 就寝 明日は、ゴームクへ（タババンが今年は雪の質が悪く、大きなクレパスがいくつもできており、大人数で登ることは危険とのことで残念。その入口まで行くことにする。

夜景がいつになく、とても綺麗だったため、2枚ほど写真を撮る。

三浦雄一郎さんが、この近くのエベレストで、80才で、明日、山頂を目指すとのこと、同じような景色を近くで見ているのではと、ふと、思いをはせる。

この景色を見ていると、心が洗われる気がする。

ここまでこないと、けっして、みられない景色だ。



8日目 6月23日(木) 天気 晴れ

ボジバサのテントより、ゴームクを目指して出発

AM 5:30 モーニングコール(本当はお昼のおにぎりの準備があったため、予定外だったが、思ったより早くできたとのことで、モーニングコールティを届けてくれた。)

AM6:30 朝食

AM7:30 タパバン入口めざし出発

ボジバサテントの前で撮影



全員、元気に出発する。(Wさんは、体調を崩しテントに残る)

他は、全員、歩いて、いざ、ゴームクまで徒歩2時間の道のりだ!!

標高差700m、ボジバサ標高3800m ゴームク4500mまで上がる。

しんがりは、私はYさんを、岸先生はSさんを、それぞれについて、一番、最後に木村宏輝先生が控えてくださる。

Yさんも、Sさんも、少し歩いたら休み、少し歩いたら休みで亀のような歩調だが、一所懸命だ。

道中、道なき道を歩くため、お手伝いして下さるスタッフの方々も、荷物を持ったり、手を支えたりと、本当に骨身おしまずお世話されている。頭が下がる思い。

AM11:30頃には、ゴームク、ガンジス川源流氷河入口に到着。

男子は、1時間かからないで、着いたようだ。

ガンジス川の源流氷河にて、沐浴。冷たいというより、身が切れる感じ。



とにかく冷たい、3回、木村慧心先生にかけていただくが、最後、「ありがとうございました」を、唇がガクガクして言えない。

氷の塊が直ぐ目の前100mもしないところにある。

頭がジャリジャリするかもと言われていたが、全く気にならなかった。

身も心も、ほんとうに洗われた気がする。寒いが、なんともいえない心地よさが体を包み込んでくれる。

ところが、日差しは凄く暑い為、川から上がると、すぐに、乾いてしまう。

沐浴後、全員でゴームクガンジス川氷河にて撮影（すぐ後ろが氷河の塊）



写真、ガンジス川の氷河風景、氷河の塊が見える



標高が高く、気圧が低いので日本から持参した甘納豆の袋がパンパンに
手は、木村慧心先生



ここに皆全員でこれてよかったと思う。Yさんは、感激のあまり泣いていた。

ヨガを教えてくださいました先生が、亡くなる前に、ゴームクに行ってみたくとおっしゃっていたため、遺影を持参しての、ゴームクまでの道のりだった。

これとは思わなかったと感激していた。

また、皆全員、Yさんを拍手で迎えてくださった、本当にあたたかい。

以下、このような道のりをひたすら、歩き続けた。



PM1 : 00 に、ゴームクを出発、一路、ボジバサのテントへ向かって帰宅。

PM4 : 00 にボジバサのテントに到着。

皆、疲れた感じ。

PM6 : 00 夕食。

女性は皆、一同に元気だ。食欲も落ちないし、おかわりもしている。

男子は食欲も落ちて元気がない。

やはり、女性はどこにいても生きていけるといえるのは、本当らしい。

宏輝先生は大人気、ひざが痛いとか、調子が悪いとか、ひっきりなしだ。

今回は、ひざのサポーターが予想外に使われて、足りない人が出てしまった。

馬の予定が、歩きだったためだと思う。

でも、皆、とても、いい顔をしているし、結束力も高まってきている。

明日は、予定より1泊早い、ガンゴートリーのニケタンへ下る。

テント暮らしもこれで終わりと思うと、少し、名残惜しい思いもある。

9日目 5月24日(金) 天気 晴れ

ボジバサよりガンゴートリーヨーガニケタンへ

予定より1日早く、ガンゴートリーのヨーガニケタンへ降りる。

「タポーパンの雪渓が思ったより厳しく、大きなクレバスがいつもあり、大人数で渡りきることは無理」と、現地を視察に行ってくれたスタッフの説明。

AM6:30 起床

AM7:30 朝食

AM8:30 出発

出発前、ボジバサテント前にて撮影



PM12:00 予定していた「チブバサ」に早く到着したため、それから45分ほど歩いたところで、昼食のおにぎりをいただく。そこで30分ほど休憩して、また、出発。

茶屋「チブバサ」にて 登り違い下りのため、皆、元気



馬組は、14名

・栗崎夫妻 2名、新屋、鈴木八重子、渡辺、梶原、林、松原、福井、二の宮、アニール、塩見、宇都宮、宏輝先生(一番最後の安全を確認するため) 以上14名
幸い、残りの1頭は、下山途中、足を引きずって歩けない人がおり、その人に乗っていただく、ここでも見ず知らずの人と助け合う。木村慧心先生の優しさを間近に感じる。

下りは、登りとちがい、下り坂が多いため、息も上がりず楽に降りることができた。

皆さんも、登りがあれほど休憩を取っていたのがウソのように、スイスイ楽々で歩いている。

登りに9時間かかったのが、下りは6時間くらいで着いてしまった。

目的地まで1キロもないところで、予定時間より早く着くことが想定できたため、最後のメンバー（木村慧心先生、青木、鎌田、岸先生、鈴木、川上さん）6名で、お寺に寄らせていただく。500R s 寄付をして、チャイをご馳走になる。

そこで、めずらしく、木村慧心先生がゆっくりされておられた。



一とき、休憩を取って、歩き始めて直ぐ、2分も経っていないところで、栗崎さんの奥様が、落馬した瞬間の現場に出くわす。

直ぐに、「宏輝先生を」といっていたが、馬の最後尾にいるため、あと、5分か10分はかかるかかるといっていた矢先、ものの1分も経たないうちに宏輝先生、アニールさんも到着。

また、目的地まであと1キロもなかったため、籠もすぐにアニールが手配できる。

本当に、何か1つずれても、スムーズにいかなかったが、全てスムーズに手配できた。

全て神様のお陰。

栗崎さんも、ヘルメットを被っていたため、頭は全く怪我がなく、両手首、顔面骨折ですむ。その日のうちに、デリーの病院に行くことができた。

その間、宏輝先生もずっと付き添いをされる。

何も知らない人達は、いつものように、何でも聞いてくれるアニールさんに、どうでもいい？ことを言っており、アニールさんは大変だった様子。

木村慧心先生、岸先生もお疲れ様でした。

ニケタンに着いてから、皆さん、山から下りてきて、洗濯も着替えもできなかつたため、洗濯、体を洗っていた。水しか出ませんでした。水しか出ませんでした。すっきり、さっぱり。